

増進型地域福祉の倫理的基礎の検討

卓越主義の可能性

大阪府立大学 小野 達也 (会員番号2934)

増進型地域福祉 卓越主義 地域福祉の質

1. 研究目的

現在、地域では生活に関わるさまざまな問題が発現し、対応が求められている。2000年の『「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書』（労働省）に象徴的に示された社会的排除ばかりでなく少子高齢、人口減少、地方消滅、地域包括ケア、防災・防犯、環境、教育、生活困窮等という課題が次々と指摘されている。地域福祉の問題の量の増大と範囲の拡大が進んでいる。その一方で、地域での問題解決に期待が集まっている。住民と行政の協働が推奨され、新たな地域づくりも進められようとしている。「我が事・丸ごと」地域共生社会（厚生労働省 2016）は、そうした動きの最前線を示すものである。地域福祉の政策化ということもできる。福祉の主要なアリーナが、地域社会・地域生活レベルまで降りてきたことを表している。

この状況は、確かに地域が注目され、その役割が重くなってきており、「地域福祉の主流化」（武川正吾 2006）の実現とも考えられる。しかしさらに注視すれば、ここでの地域福祉は後追的であり、さまざまな政策・制度を補う役割が期待され、地域社会はそのための対象、あるいは方法と考えることもできる。これが、地域福祉の唯一の方向なのであるか。地域福祉に対する期待と役割が大きくなり、政策化しつつある現在、改めて地域福祉の性格を問う時機にきている。報告者は地域福祉実践での客体化を生み出さないために「対話的行為」を論じてきた（小野 2014）。さらに地域福祉のより高い質が課題となっていると考えて、「増進型地域福祉」を提起している（小野 2016）。

地域福祉のオルタナティブを検討するには、その基礎にすえるべき価値倫理を探究する必要がある。価値倫理は福祉の考え方に枠組みを与え、地域福祉実践を方向づける。本報告ではこれまでの平等・公正を基本とする価値倫理からより高い質を追求する価値倫理への展開を探る。また、その概念が地域福祉に援用可能かどうかを検討する。さらに、これを地域福祉の価値倫理とした場合の影響について考察する。

2. 研究の視点および方法

地域福祉の基本的な性格を規定し、援助活動や実践の基盤となる価値倫理に着目する。地域福祉の高い質を問題にするためにはどのような価値倫理が求められるのかを明らかにする。方法は既存の文献・資料を用いる理論的なアプローチである。主要な価値倫理を探索し、地域福祉の質に関わる考え方について批判的に検討する。

3. 倫理的配慮

本研究は理論検討である。方法としては文献研究であり、研究に当たっては日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守する。使用する文献名については当日資料に明記する。

4. 研究結果

地域福祉の価値原理に影響を持ってきた主要な考え方として以下のものがあげられる。

①ジョン・ロールズの正義論は、公正としての正義に立って機会均等原理や格差原理を主張する。②アマルティア・センの潜在能力アプローチは財や効用とは異なる道徳的基準をもち、機能・潜在能力の欠落・不足の補正を平等主義の基準とみなす。③ノーマライゼーションは、障害者を排除せず、健常者と均等に当たり前の生活ができる社会を目指す。

これらは、基本的には公平性が基準となっている。これに対して、質の高さを視野に入れる価値倫理として、アリストテレスらに始まる「徳の倫理学」を下敷きにした「卓越性の倫理学」（卓越主義）の考え方をあげることができる（塩野谷祐一 2002）。

塩野谷は倫理学の構成を【善・正・徳】の3つの価値から説明する。これに操作的価値言語の【効率・正義・卓越】が対応している。徳は人間存在の望ましいあり方を問題にする抽象的な概念であり、それを道徳や社会理論にリンクする操作的概念が卓越である。

卓越主義では、良き生は人間本性を構成するさまざまな特性を発展させることであり、人間的繁栄、自己実現が目指される。ここでの卓越は享受能力よりも社会的実践における成果の生産能力にある。ただし、卓越主義はエリート主義ではない。あらゆる人の生きがいと卓越性の両立は可能であり、すべての人の卓越への志向を望ましいとする。この立場では社会保障の基礎的ニーズは、人間の生物的存在の条件ではなく、自己実現のための条件とされる。福祉国家的な「効率と正義」、「経済的動態と社会的連帯」を媒介するのは共同体を基礎とした卓越であると主張する。

5. 考察

小さな政府を志向する現在、国政レベルが塩野谷の卓越主義を採用することは難しい状況である。しかし、社会福祉が平等・公正に終わらず、すべての人の卓越（人間本性の発揮）を求めることは理論的な選択肢としてはありえ、地域福祉には可能性がある。

地域福祉への援用には条件がある。①地方分権という前提に立って、卓越主義を選択するかどうかを地域・現場で決定する。②地域福祉は公私協働の性格があるが、卓越を目指すには民間性・自発性が高い質を求めるために発揮される必要がある。

地域福祉の性格への影響として①高い質を目標として設定することで幸福追求・地域福祉の実現が志向できる。②卓越が効率と正義を媒介することで地域の経済的再生（コミュニティ経済）や引きこもり支援（仕事起こし）も地域福祉の対象範囲となってくる。

地域福祉実践に対する影響として、マイナスからゼロに戻すのではなく理想的な状態を目指すという発想の転換、問題解決型ではなく目的実現型の取組みへの転換、目的を実現する方法・技術の構築、個人の自己実現と地域社会の継続の両立、などが生じてくる。